

第2回研究例会「公開授業」について

東京都立青山高等学校 富塚 昇

1 公開授業

- ① 日時 2010年11月2日(火) 第6時限
- ② 科目 1年生必履修科目「現代社会」
- ③ テーマ 「資本主義経済のしくみと市場」

2 本授業のねらい

新学習指導要領の「現代社会」において「2 内容 (1) 私たちの生きる社会」の項目では「現代社会における諸課題を扱う中で、社会のあり方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる」とある。さらに、現代社会の『解説』では(2)の「項目ごとに課題を設定し、内容(1)で取り上げた幸福、正義、公正などを用いて考察させること」とある。

また、今回公開授業で取り上げた「資本主義経済のしくみと市場」の單元では、「市場経済の機能と限界」については「指導にあたっては、「内容の(1)で取り上げた幸福、正義、公正などをもちいて(内容の取り扱い)現代の経済社会における個人や企業はどのような目的で経済活動を行っているのか、また、経済活動に対してどのような責任があるのか、なぜ責任があるのかなどについて考察させ、市場経済に関する理解を深めさせるように配慮する」と述べられている。

そこで、今回の授業にあたっては、市場機構のメカニズムについて、需要曲線と供給曲線の動き、特に需要曲線と供給曲線のシフトを題材とし、「幸福・正義・公正」の視点をふまえて考えさせる教材を検討した。それは、需要曲線と供給曲線のセオリーについてを理解させるとともに、生徒にとって具体的にイメージすることができるような論争的な「物語」的な教材によって、また、グループ・ワークなどによる生徒のよる“talk”「語り」によって「幸福・正義・公正などをもちいて考察させる」という課題にせまることができるかということである。そして、「物語」的な教材としては、昨年話題となった『これからの「正義」の話をしよう』(マイケル・サンデル著)第1章「正しいことをする」より、「ハリケーン通過後に便乗値上げが起こったこと」を取り上げた。

3 授業展開について

① 前時の授業について

経済学習の1時間目として、「経済」とは何か、「経済主体」についての基本概念を説明したあとに、予備的な作業として次のテーマでグループワーク及び作文課題を実施した。

② 生徒への課題(グループワーク)及び作文課題について

演習1 有名人の「所得」はどれくらいだろうか。

10月3日放映されたNHKの「ハーバード白熱教室@東京大学」によると日本の平均的な教員の年収は約400万円だそうです。それでは、メジャーリーガーのイチロー(シアトルマリナーズ)の年俸、また、アメリカのオバマ大統領の年収はどれくらいだと思いますか(個人の努力について、そして社会への貢献を考え、どれくらいがもらえるのが適当だと思いますか。グループで予想をしなさい。

	予想した額	実際の額
イチロー	約 () 円	() 円
オバマ大統領	約 () 円	() 円

問題1 イチローやオバマ大統領の年俸(年収)を聞いてどのように思いましたか。想像していた額とどのような違いがありましたか。思うところを書いて下さい。

演習2 以前の「青山セミナー」(青山高校の移動教室)で「世の中、お金が一番大切か」というテーマでディベートが行われたことがありました。やはりお金が一番でしょうか、それともそうとは言えないでしょうか。このことを考えるために、「世の中 [] が一番大切だ」。という文の空欄の中には、[お金、愛、正義]が入るとします。つまり、「世の中、お金が一番大切だ」「世の中、愛が一番大切だ」「世の中、正義が一番大切だ」の中で「どれが一番」かそして「二番」「三番」になるでしょうか。最初にあなたの考える順位をつけなさい。その後で、グループで話し合っ、あなたのグループで順位をつけなさい。

世の中[]が一番大切だ	あなたがつけた順位	グループでつけた順位
お金		
愛		
正義		

問題2 演習1・演習2のグループ討議を行って感じたこと、思ったことをふまえて、「世の中お金が一番大切か」という問いについてどう思うか、あなたの考えをまとめて下さい。(あるいは「お金」と「愛」と「正義」の関係について思うことをまとめなさい)。(200字程度)

③ 2時間目(本時)の授業展開について

以下に示すプリントをもちいて、次の各点を確認しながら授業を展開した。

- i 前時で書いた課題をプリントしたものを配付し、
 - ii 需要曲線・供給曲線のシフトについて理解させる
 - iii ハリケーン通過後に大きな被害が起こった時に、需要曲線・供給曲線はどのような変化が起こるだろうかを考えさせる。
 - iv ハリケーン通過後の便乗値上げについての二つの立場からの意見を読み、授業のまとめとして課題に答える。
- i お金・愛・正義についての回答集

- ① 正義は人によって考え方が違うわけだからいろいろな正義がある。なので特に重要だとは考えない。愛はいつ変わってもおかしくないかも知れない。だから重要ではない。それに対してお金は裏切りがない。変わることがないので信用できる。
- ② お金がある上での正義だと思う。正義とはその社会の状況で変わってくると思う。お金で世界は変わるが、愛で世界は変わらない。
- ③ 世の中お金だけではないと思います。お金がどれだけあっても愛や正義は買うことが出来ません。私はそ

ういうお金で買えないもの、かたちになってみる事が出来ないものこそ本当に価値があるのではないかと思います。人として持っていた方がいいものはきっとお金なんかじゃなくて、もっと温かい何かなんだと思います。人と人が愛をもってお互いを助け合っていくこと、すべての人を平等に愛する正義があれば、世の中それほどお金がなくてもいいのではないかと思います。

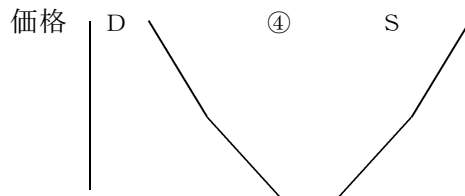
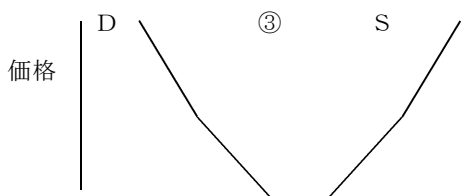
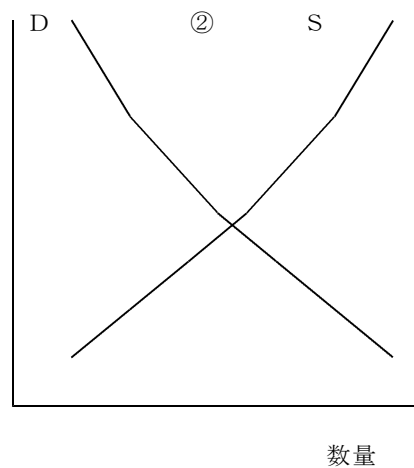
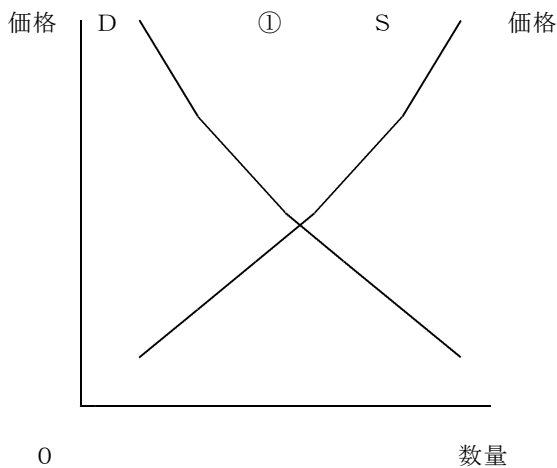
- ④ 一番大切なのは「正義」だと思います。愛やお金があっても人間としての常識、何をするかよいかと言うことを考えないとみんなが幸せに生きることができないと思うからです。愛が大切とは言ってもそのことだけに気をとられて人を傷つけたり悪影響を及ぼしかねないです。人間として時には、人のことを思ってあきらめたり、自己中心にならないようにしなくてははいけません。そういったことから考えると一番大切なのは「正義」です。

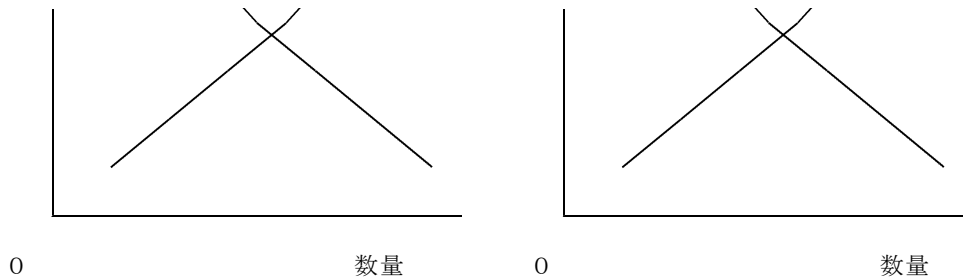
習問題 次の場合には、需要曲線または供給曲線はどのようなシフトするだろうか。

次の①～④の場合、需要と供給、均衡価格と数量にどの様に影響するか、↑か↓のどちらかにをつけなさい。ただしそれぞれの事柄は需要か供給のどちらかにだけ影響する。(需要と供給ついて、影響するのが「需要」であるなら「需要」の矢印だけにマールをつけ「供給」には何つけない)

- ① 輸入品が減る。 ② ある商品の人気低下する。 ③ ある商品の人気が高まる。 ④ 下の [問題2]

	需要		供給		均衡価格		均衡数量	
①	↑	↓	↑	↓	↑	↓	↑	↓
②	↑	↓	↑	↓	↑	↓	↑	↓
③	↑	↓	↑	↓	↑	↓	↑	↓
④	↑	↓	↑	↓	↑	↓	↑	↓





問題2 練習問題の④について

『これからの「正義」の話をしよう』 マイケル・サンデル著より

「2004年夏、メキシコ湾で発生したハリケーン・チャーリーは猛烈な勢いを保ったままフロリダを横切り大西洋へ抜けた。22人の命が奪われ、110億ドル（仮に1ドル＝80円とすると、8800億円）の被害が生じた。・・・8月半ばだというのに電気が止まって冷蔵庫やエアコンが使えなかった・・・木々が吹き倒され（屋根の修理が必要となった）」

◎このような時に、さまざまな製品の「価格」にどのようなことが起こっただろうか。

- A 困っている人が多いので、多くの小売店は商品の価格を値下げした。
- B ここぞとばかり、多くの小売店は商品の価格を値上げした。

便乗値上げについての経済学者・司法長官等の意見

◎経済学者 トーマス・ソーウェルの意見

「氷、ボトル入り飲料水、屋根の修繕代、モーテル（自動車旅行者のための簡易ホテル）の部屋代などが通常よりも高いおかげで、こうした商品のサービスの消費が抑えられるいっぽう、はるかな遠隔地の業者にとってハリケーンの後で最も必要とされているサービスを提供するインセンティブ（誘因）が増すことになる。8月の猛暑のさなかに停電で困っているフロリダの住民に氷が一袋10ドルで売られるとなれば、製氷会社はどんどん増産して出荷するのが得策だと気づくはずだ。こうした価格に何ら不公正なところはない」。

・「市場」を評価する評論家 ジェフ・ジャコビーの意見

「市場でつく価格を請求することは暴利行為ではない。強欲でも恥知らずでもない。それは自由な社会で財やサービスが分配されるしくみのだ」。「（一見法外な価格も、必要な商品の増産を促すインセンティブ（誘因）を与えることによって）、「害よりもはるかに多くの益をもたらす」「売り手を悪者にしても復興が早まるわけではない」（『これからの「正義」の話をしよう』 マイケル・サンデル著より）

→資料集P. 99 7 アダム・スミス『国富論（諸国民の富）』

◎フロリダ州司法長官 チャーリー・クライストの意見

「ハリケーンの後で困っている人の弱みにつけ込もうとする人間の欲深さには驚きを禁じえない。」「緊急事態において、人々が命からがら避難したり、ハリケーンの後で家族のために必需品を手に入れようとしているとき、良心に照らして不当な価格を請求されているとすれば、政府はそれを傍観するわけにはいかない。」「これは正常な自由市場ではない。自発的な買い手が自由意思で市場に参入し、自発的な売り手に出会い、需給に応じて価格が合意されるわけではないからだ。緊急事態では、せっぱ詰まった買い手に自由はない。安全な宿泊施設のような必要不可欠なものの購入に選択の余地はないのだ。」

（『これからの「正義」の話をしよう』 マイケル・サンデル著より）

・補足の資料（ ）『道徳感情論』

「人間はどんなに利己的なものと想定されうるにしても、明らかに人間の本性の中には、何か別の原理があり、それによって、人間は他人の運不運に関心を持ち、他人の幸福を—それを見る喜びのほかにも何も引き出さなくてもかわらず—自分にとって必要なものだと感じるのである。この種類に属するのは、哀れみまたは同情であり、

それは、われわれが他の人々の悲惨な様子を見たり、生々しく心に描いたりした時に感じる情動である。われわれが、他の人々の悲しみを想像することによって自分も悲しくなることがしばしばあることは明白であり、証明するのに何も例を挙げる必要はないであろう」

「人間社会の全成員は、相互に援助を必要としているし、同様に相互の侵害にさらされている。その必要な援助が、愛情から、感謝から、友情と尊敬から相互に提供されているばあいには、その社会は繁栄し、そして幸福である。」

問題3 さて、ハリケーンに襲われて物価の上昇が起こっている状況において、人々の自由な経済活動に任せておくべきだろうか。それともこのような「値上げ」を禁止する法律を作るべきであろうか。あなたの考えをまとめなさい。

④ 生徒の回答について－「公開授業」を行ったクラスの生徒の回答について

○市場メカニズム重視・・・22名

○値上げを禁止する「法律」を制定するべき・・・12名

○どちらとも言えない、その他・・・6名

① 困っている人々を助けるのではなく、自らの利益を最優先して追い打ちをかけるようなまねをするのは非人道的だと思うけれど、それでも法律を作るのは妥当ではないと思う。困っている人を助けるのが当たり前のように、もうけを得ようとするのも当然だから批判はできないし、需要が跳ね上がって価格が急上昇すれば、供給量も増え、結果的には値段は元に戻っていくのだから、法で規制をして元に戻るのが遅れるだけだから、つくらなくてもいいのではないかと思う。

② 法律を作るべきだと思う。確かに個人の復興（立て直し）よりも社会の復興の方が重要かもしれない。しかし私たちは人間である。それはつまり利益や損得を計算することしかできない機械とは違い、人を思いやる優しさを持っているということだ。このような状況の時に求めるべきものは、経済的充実よりも優しさによって生じる精神的充実だと僕は思う。

③ 道徳的に考えれば法律で規制するべきだが、現実的に考えると値上げしなければお金が回らず、暮らしが厳しくなったり、復興が遅くなってしまふ可能性があるため、法律はつくらないという選択をせざるを得ないと思う。また、市場価格は別に不条理に上がっているのではなく、需要が上がっているのだから値上げを禁止する必要はないと思う。理想論かもしれないが、政府が蓄えていたものを配給したり、裕福な人たちが協力して、貧しい人たちに手をさしのべて値上げをすることなく復興できたら一番よいと思う。しかしこれは現実的ではおそらく無理だろう。

④ 私は、法律をつくるべきであると思う。人間いくら善良な心を持っていたとしても、心の奥底ではもっと幸せになりたい、とかもっと得をして利益を得たいなどと思ってしまうものだからだ。人々はお互いに助け合わなければ生きていけない。もし、物価の上昇を抑えたのなら、今度商店側が困った時、人々は助けてくれるだろう。それが助け合うということだからだ。そのためには自主的に値を下げるのが一番だが、やっぱり自分の利益のみを追求するものもいるので、法律によって規制するべきである。

4 まとめと課題

「幸福・正義・公正」を用いて考察させるという授業展開は、それらの概念の内容についての理解を深めることが欠かせないことであるとともに、それらについてどのように生徒に教材として提示す

るかといういわば方法についての検討が重要なことになってくる。

私は「平成21年度 都倫研紀要 第48集」で「財政・税制についての授業実践報告」で、「幸福・正義・公正などについて理解」させる授業展開の試みを発表させていただいた。そこでは、J. J. ルソーの「人間を通して社会を、社会を通して人間を研究しなければならない。政治学と倫理学を別々に取り扱おうとする人々は、そのどちらにおいても何一つ理解しないことになるのだ」[『エミール』(中 P. 74) 岩波文庫]という言葉や、社会学者のC. W. ミルズが「個人環境に関する私的問題」と「社会構造に関する公的問題」を結びつけて考える能力としての「社会学的想像力」を提唱していることを取り上げた。今後は、そのキーワード(キーセンテンス)の各論として、より具体的な授業実践を積み上げていく必要がある。例えば「ハーバード白熱教室」や『これからの「正義」の話しよう』でマイケル・サンデルが行っているように、具体的事例(いわば一つの「物語」)を通して議論が深まっていくことは、「正義」の内容を理解するだけでなく授業の展開として大いに参考になる方法であると思われる。授業において生徒の「語り」をいかに生み出し、その「語り」を授業に活かしていくのかということも重要なことになるということでもある。その意味で、今後の課題として「幸福・正義・公正」を通じて考察させる授業において、いわば「物語」「物語り」を生かしたアプローチの意義と有効性を検討するとともに、具体的な実践を積み重ねていくことで授業の改善をはかってきたいと考えている。本稿は、昨年度の『都倫研』紀要に引き続き、新学習指導要領を視野に入れた些細な試みであり、皆様のご批判を賜ることにより、一層の改善に努めていきたい。